



2018年10月

第280号

The Service Club of The YMCA

## 東京八王子 ワイズメンズクラブ

会 長 久保田 貞視  
副会長 花輪 宗命・並木信一  
書 記 多河敏子・長谷川あや子  
会 計 小口 多津子  
ネット会長 久保田佐和子  
担当主事 中里 敦  
プリテン 山本 英次・茂木 稔  
大久保 重子・多河 敏子  
直前会長 小口 多津子

国際会長 Moon Sang Bong (韓国) 主題 “Yes, we can change”  
スローガン “Courage to challenges” 「挑戦への勇氣」  
アジア地域会長 田中博之(東日本区) 主題 Action 「アクション」  
スローガン “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」  
東日本区理事 宮内友弥 (東京武蔵野多摩) 主題: 「為せば、成る」  
副題「ワイズが何をしてくれるかではなく、あなたがワイズに対して何が出来るかを考えて実行しよう」  
あずさ部部长 廣瀬 健 (甲府21) 主題「未来はそれを備える人のものである」  
クラブ会長 主題「動こう、動かそう！」副題「変わろう、変えよう！」

### 10月例会プログラム (中大ナイト)

日時: 10月13日(土)18:00~20:00

(担当:A班 小口、長谷川、中塚、中里、古市)

会場: 八王子北野事務所2F

受付: 恩田春香(2年)

司会: 斎藤春樹(3年)

開会点鐘 久保田会長

ワイズソング・ ー 同

ワイズの信条 ー 同

ゲスト・ビジターの紹介 久保田会長

あずさ部部长挨拶 広瀬 健部長(甲府21クラブ)

聖句・食前の感謝 戸加里春樹(2年)

会食

卓話 { STEP 台湾・高雄報告 } 「IYC に参加して」

須郷利貴(4年) 宮内蒼也(3年)

「夏季ゼミに関して」 斎藤春樹(3年)

東京YMCA報告 担当主事 中里

報告・連絡事項 会長・担当者

スマイル報告 恩田春香(2年)

Happy Birthday 久保田会長

閉会点鐘 久保田会長

### 巻頭言

#### 中大ナイトについて

久保田貞視

中央大学 YMCA(以下ひつじぐも)との接点はひつじぐも発足2年目の2001年2月に京王八王子駅出口で実施したエルサルバドル・西インド地震救済募金街頭募金での中央大学2年の旧姓佐藤絵里子さん(第2代委員長)の声掛けから始まりました。その後18年間継続して、ひつじぐも中大生のクラブ例会への出席、チャリティコンサートでの支援、老人ホーム・シルバーセンターから高尾わくわくビレッジに移った草刈り・BBQの協働及び2002年オーストラリア・シドニーでの国際大会時のInternational Youth Convocation(IYC)への派遣から継続しているIYC/AYCへの派遣などひつじぐもと当クラブとは密接な関係にあります。これまでもIYC及びAYCに参加された中大生からは帰国後のクラブ例会(10月)で、IYC/AYCだけでなく海外へのスタディツアーや日本YMCA同盟の全国

	先月の例会ポイント (9月)	BFポイント
在籍	17名	切手 (国内・海外) 0g
メン	12名	累計 123g
メイキャップ	1名	現金 0円
出席率	76.5%	累計 0円
メネット	1名	スマイル 15,850円
ゲスト	1名	累計 20,090円
ビジター	0名	オークション 0円
ひつじぐも	0名	累計 0円

### 聖句

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」

(第一コリント12章26節)

学生夏季ゼミ等についても報告をしていただいていたいました。

そして、2014年にユース・ひつじくも担当の中塚ワイズと相談して10月例会は、IYC/AYCの体験発表をお願いしているのだから、いっそ10月例会をすべてひつじくもの学生に担当してもらうことに決めたいと、クラブの皆さんと相談しました。全員の賛同を得て、第71回インド・チェンナイでの国際大会時のIYC参加者(藤永嵩秋君と岡本敦史君)に卓話をお願いし、ひつじくもの学生に、受付、司会、聖書購読、感謝礼拝、スマイルなど会長以外の職務を担当していただき開催、今回は5回目となります。ひつじくもの学生の自主的な例会運営に東日本区の中でもユニークなYIAとなり、評価されています。

今年は、韓国・麗水での国際大会と並行して実施されたIYCの体験を須郷君と宮内君の2人に発表していただきます。二人ともIYCでは積極的に外国からの参加者と交わり意見交換していたようですので発表が楽しみです。

### YVLF in 山中湖

小口多津子

9月7～9日の3日間、YMCA 山中湖センターでのユースボランティア・フォーラム(YVLF)に参加してきました。各都市YMCAの子供達のプログラムを手伝う若者(ボランティアリーダー)の経験のまだ浅い方々が各センターから2名が参加して、カウンセラーの先輩たちと交流する場です。かつてはリーダーだったカウンセラー自身も、今回は助言したり、教えたりの場であり、YMCAだから出来るまさに「つながる」です。

東京駅出発の大型バスの中からプログラムが既に始まっていて、私は山中湖センターで受付をして待っていましたら、到着した彼らの表情はすでに仲間が出来た嬉しさ一杯に溢れていました。フォーラムは自分のリーダーとして仕事を確める為に、その同志の友人と語り合う場です。きっと悩みを同じように抱えた仲間が各地域で、同じように考えていることに触れて気持ちが新鮮になり、この体験は彼らの一生の宝となるでしょう。

2日目の基調講演はYMCA職員でもあった、山口直樹ワイズのお話でした。ご自身のリーダー体験からリーダー時代に感じたこと。子供達から人生を学んだこと。子供や親や教育現場から何を求められているか。各自は今、何を感じているのかを問い、フォーラムの成果を今後に反映して欲しいと、言われました。講演の最後に紹介された渡辺和子氏の言葉が、とても心に残りました。—「あなたが大切だ」と誰かにいってもらえるだけで、生きてゆける。

参加リーダー31名の内訳は地震で欠席となった北海道以外のYMCAから、とちぎ(宇都宮、那須ぐんま、仙台、盛岡、千葉、横浜(鎌倉、とつか、横浜北、川崎、藤沢)、山梨、東京(江東、南、西東京、山手)、カウンセラー6名、事務局(とちぎ

Y)スタッフ2名、ワイズメンのべ27名。

八王子クラブから長谷川さん、小口で出席しました。



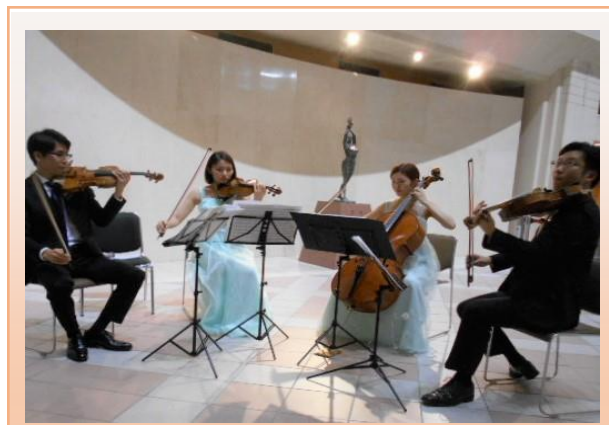
基調講演の講師、山口直樹ワイズ

## 朝日生命チャリティーコンサート

山本 英次

八王子ワイズの先輩でもある仲田達男メンのお誘いで、多摩市にある朝日生命多摩本社ビルエントランスホールにて開催された恒例の「ユネスコ・トワイライト・コンサート」(ネパール&カンボジア寺子屋支援チャリティーコンサート)に出かけてまいりました。

桐朋学園大学在校生・卒業生で結成された「風の仲間」と「朝日生命有志」による合同の企画で開催されています。プログラムは、「風の仲間」による(ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト)16歳のモーツアルトがオーストリアで作った曲に始まり、「マタイ受難曲」よりコラール(讚美歌)の中から抜粋した曲や「愛の悲しみ」「亡き王女のためのパヴァーヌ」等のクラシックに大瀧詠一作曲「さらばシベリア鉄道」や布施明「君は薔薇より美しい」、葉加瀬太郎「情熱大陸」に加えて映画「となりのトトロ」より「さんぽ」などの楽しい名曲に堪能したひと時でありました。



## 西東京 CC 便り

### 〈西東京コミュニティーセンター便り〉

館長 中里 敦

先月号をお休みしてしまったので、この夏のことを書かせていただきます。この夏は、西東京センターでは7本のキャンプと2本の学童を実施しました。今年の夏は皆様もご存じのとおり、台風、集中豪雨が多かったシーズンでした。西日本側に集中したことを考えればたいしたことではなかったのかもしれませんが、しかし、ひとシーズンに複数にわたって対応をしたのは初めてのことでした。天気が悪くずっと外に出られないキャンプはこれまでもありました。自然に任せるしかないあきらめの中でも、仲間と過ごしたキャンプの経験は一人ひとりの成長につながり思い出として残ります。しかし、ここ数年の豪雨の被害を考えるといつどこで何が起こってもおかしくないと感じ、いつ自分たちの身に起こるかもしれないという気持ちにさせられます。安全を最優先に考えながらも、参加者にとっての楽しみや貴重な体験の場を無くしたくないという思いが入り混じる中で、どう判断するかがとても難しく感じました。また、今年は熱中症対策の判断もしなければならぬ夏でした。デイキャンプでは、公園や川に行く予定にしていたプログラムを室内に変更する対応をとったのも初めてのことでした。雨が降った時用に考えていた室内プログラムを熱中症対策で使う夏でした。

天候は私たちにはどうしようもなく、受け入れていくしかありません。その中で私たちが自然とどのように向きあっていくかになります。キャンプをする環境（場所）、緊急時の対応、安全か経験かなどこれまで以上に考えさせられる夏でした。それだけに一つひとつが守られたことに強い感謝の気持ちを感じました。

### 〈西東京センター 主な行事予定〉

【10月】

◆9日（火）「のどトレ教室」@西東京センター  
14時00分～15時00分

声を出す、うまく飲み込む機能は年々衰え、意識してトレーニングしないと衰えを防ぐことはできません。誤嚥予防、ハリのある声やスムーズな滑舌を身につけていきます。定員：各回 30 名 参加費：700 円/1 回

## 中大ひつじぐも便り

【長い夏を終えて】 ひつじぐも3年 斎藤春樹

長い夏休みが終わり大学では通常の講義が始まりました。今年の夏は、日本中で様々な災害が起こりました。7月には西日本豪雨災害、9月には北海道で震度7の地震それに加え、相次ぐ台風の被害を日本各地で受けました。私が運営委員長を務めた夏期ゼミナールでも北海道地震の影響で参加できない方がいました。さて、私はこの夏休みに広島YMCAが主催する西日本豪雨災害ボランティアワークに参加させていただきました。私がこのボランティアワークに参加した理由は2点あります。1点目は災害ボランティアの経験がこれまでになく、経験してみたかったからです。2点目は現地の被害を実際に目で見て、復旧作業を行うことで災害を少しでも詳細に知りたいと思ったからです。私の住む関東地区は、ここ数年は幸いなことに目立った災害の被害を受けてはいません。しかし、それは偶然そうになっているだけであり、関東もいつ災害が起こるか分かりません。現に、首都直下地震や南海トラフ地震など危惧されている災害が多くあります。それらが明日起こるかもしれません。が、はたして私たちがどこまで災害に対処できるでしょうか。目立った災害の被害を受けていないということは、災害への対処の仕方も分からないということではないでしょうか。もちろん、全員がそうではないですが関東地区の人の多く、特に若者を中心として災害の経験が少ないことも事実です。私も災害の経験はありません。だからこそ、災害への対処の仕方を学び、私たちの住む地域で災害が起こった際に冷静に対処できる必要があると考え、今回広島のボランティアワークに参加しました。私たちは広島県安芸郡の小屋浦という地区の復旧作業を行いました。現地へ赴くと、無惨な光景が広がっていました。川が氾濫した後の川は護岸のコンクリートが削り取られており、上流の家屋は、土砂と共に流れてきた岩に押し潰され、下流の家屋には人間の高さ以上の水が押し寄せ泥だらけの状態でした。私たちは下流にある1件の家屋に溜まった泥の掻き出し作業を行いました。床下一面に厚さ30cm以上の泥が積もり、それを掻き出しては土嚢につめて外に出す作業を永遠と行いました。土嚢の結び方すら初めてな私は戸惑いの連続でした。しかし、他のボランティアの方々からやり方などを学び作業を進めました。2日間の作業で家の約半分の泥を掻き出すことができました。全体的に見ると被災した数ある家屋の中のたった1件の半分の泥だしが終わったに過ぎませんが、少しずつ復旧へと向かっていると感じました。現地へ赴きボランティアワークを経験したことで、災害被害の様子やその際の行動や復旧作業の様子などを少しでしたが知ることができたと思います。この経験を災害が起きた時こ活かされればと思います。

### お話

「8月15日の朝日新聞の夕刊に小さく「カトリック神父三百人、性的虐待・米ペンシルベニア被害一千人。」と出た事件に絡んで教皇が発表された手紙の中に、この聖句の前半だけが引用されていました。

ローマカトリック教会としては忌々しき事件で、発覚するはるか以前に教皇の耳に入っていたというおまけまでについている出来事です。高位の聖職者の大勢がその犯罪者だったなどという話題で聖句を紹介したくはなかったのですが、事実は直視しなければならないと思いましたので引用しました。

教皇が、前半ではなく後半だけを引用して、手紙を書ける社会にしたいものです。」

仲田達男

# 報 告

**第一例会報告**9月15日(土)午後6時～8時 北野事務所  
日航機事故と第一空挺団と題して日野プロバスクラブの宮地公平様による話でした。1985年8月12日羽田を離陸した日航機が群馬県の御巣鷹山に墜落した史上最悪の墜落事故。最終的な身元確認まで約4か月を要しました。

東京航空事務所から航空自衛隊に災害派遣要請が出され、8月13日陸自偵察ヘリ墜落機体発見。生存者4名を救助。川上慶子さんが佐久間2曹に救出されたことは記憶に新しい事ですね。尚日野のプロバスクラブには八王子クラブの山本英次ブリテン編集長が所属しております。

**第二例会報告** 9月29日(土)午後6時～8時

久保田会長・中塚・小口・望月・花輪・茂木・山本・多河(8名)  
**報告・協議事項**

◎9月23日(日)木場公園8時30分集合(32回 International Charity Run)参加者・長谷川・並木・久保田・中里(4名)

◎9月29日(土)～30日(日)・第16回富士山例会 参加者・久保田会長 台風の為中止

◎10月6日(土)11:00～17時 郡山キリスト福音協会  
出席者;長谷川・久保田メネット

◎10月10日(水)19時～ 東京YMCA 西東京センターボランティアリーダー感謝会

東京武蔵野クラブ・東京八王子クラブ 合同例会(両クラブから15,000円寄付・飲食代)

出席希望者は10月1日までに久保田会長に通知

◎10月20日(土)12:00～15:00 あずさ部会 会場:甲府市岡島ローヤル会館8階 会費:メン5,000円、女性2,000円

出席者:花輪・小口・長谷川・久保田

◎来期クラブ創立25周年記念例会打ち合わせをする(検討中)・会長案は4000円位の会費で内輪の懇親会・記念誌

◎東京サンライズ創立30周年記念例会:2019年3月23日

◎クリスマス例会について(C班提案)

◎EMC その他

**絹の道デイサービスセンター ボランティア活動**

【報告】9月28日(金) ペーパーフラワー

参加者:赤羽、色川、下重、山口、山中、茂木

【予定】10月19日(金) 14:00～15:00 ペーパーフラワー

**\*BF2018年8月報告 切手・プルタブ報告**

切手: 国内	35g	
海外	0g	累計 158g
プルタブ	0kg	累計 5.5kg

**10月の誕生者**

**小口多津子さん 10月4日**

**辻 久子さん 10月29日**

## 高尾わくわくヴィレッジ便り 10月号

所長 古市 健

上半期最後の月、9月が終了いたしました。おかげさまで9月も多くのお客様をお迎えすることができ、前年度を上回る3,382名のご宿泊がありました。酷暑から一転、段々と過ごしやすい気候になってきたことも原因であったか、テントにご宿泊になったお客様も昨年度よりも多くいらっしゃいました。今年は台風の当たり年でしたが、幸いにして台風の日には野外のお客様のご利用がなかったこともあり、お客様には影響がありませんでした。今後は台風の活動もなくなっていくと予想されますが、万一来れば、対応のシミュレーションを重ねて参りたいと思っております。

これで今年度も上半期を終えることとなりましたが、昨年は一旦落ち込んだ宿泊者数も今年は大きく盛り返すことができ、前年度同期を4%程度も上回る20,730人のお客様にご宿泊をいただくことができました。今までご利用いただく機会の少なかった地域から多くの学校が新規でご利用いただいたり、かつて利用があったもののこの数年は他の宿泊施設をご利用になっていた学校に、また当館の利用を再開いただいたり、多くの青少年の学習・体験の場として機能することができました。大変ありがたい思いがしておりますとともに、引き続き多くのお客様の期待に叶うよう、質の高いサービスをご提供するために気を引き締めております。

下半期に突入し、上半期と比較すれば少し落ち着いた日々がスタートいたします。また、11月には例年開催しております「わくわくフェスティバル」が今年も予定されており、その準備もいよいよ佳境を迎えております。フェスティバルで多くのお客様に喜んでいただけるよう、準備を続けて参ります。



ブリテン編集委員

山本英次・茂木稔・大久保重子・多河敏子

<http://ys-east.jimdo.com/bulletin/okyohachioji/>